

## 会議録

会議名	令和5年度第1回丸亀市放課後子どもプラン運営委員会
開催日時	令和5年7月31日 10:00~11:30
開催場所	丸亀市役所3階303会議室
出席者	<p>出席委員 本荘 勝・奥田 勉・津野 洋美・原田 伸二・高橋 勝子・            金丸 繁利・奥澤 日登美・香川 真実・野崎 晃広・谷本 智子・            塩田 康広</p> <p>欠席委員 齢田 美由紀</p> <p>事務局として出席した者 末澤 康彦教育長・齢田 徹也部長・土井 節子副課長・            富士川 美由紀担当長・野口 耕平主任・            渡邊 優花主事</p> <p>傍聴者 なし</p>
協議案件	<p>(1) 令和5年度丸亀市放課後子どもプランの現状と課題について</p> <p>①放課後児童健全育成事業（青い鳥教室）について            ア) 令和5年度の実施状況</p> <p>②放課後子供教室推進事業について</p>
議事の経過及び発言要旨	<p>一開会 午前10時—</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 委嘱状交付</li> <li>2. 教育長あいさつ</li> <li>3. 委員長あいさつ</li> <li>4. 議事</li> </ol>
委員長	<p>①放課後児童健全育成事業（青い鳥教室）について、②放課後子供教室について事務局より説明をお願いしたい。</p> <p>【事務局説明】</p> <p>まず、青い鳥教室についてご意見・ご質問等ありましたら発言をお願いしたい。</p>
委員長	
委員	<p>毎年、在籍人数はこの会で把握しているが、この人数だけ見ると一つの教室にこれだけの児童がいると考えると恐ろしい。この在籍児童の何パーセントが実質的に通っているのか教えてほしい。この人数の中、本当に安心・安全な場が保たれていい</p>

	るのかというと、難しいと思うため、どんな状況なのか聞きたい。
事務局	実際に通っている人数は、資料 1-4 で最大出席人数ということで表記させていただいている。この表だと 6 月に一番多く来た児童の人数が表記されている。例えば、城乾第 1 青い鳥教室だと、在籍人数 32 名に対して最大出席人数 29 名。教室ごとに差はあるが、全体的な傾向で言うと在籍者数全員がそろう日はあまりない。
委員長	事業団から意見はあるか。
委員	現状としては、今年度利用人数が特に増えている。新型コロナウイルスが第 5 類に移行してから就業される方が増えた関係なのか、過去最高の利用人数になることも予測している。夏休みは特に利用児童数が増える時期で懸念しているところではあるが、待機児童をなくす形で全員の子どもたちを安全に見れるように注意しながら運営している。教育委員会にも協力していただき、施設の整備等をしていただいているが、非常に人数の多い教室があることは、気にしているところである。
委員長	丸亀市だけではないが、全国的に学童は歴史が浅い事業のため、どうしても学校や保育所のように制度設計上明確に最低基準がない。ガイドラインはあるが、どうしても児童が多い校区はタイトな状況だろうと思う。
委員	城東第 3 青い鳥教室に勤務しているが、定員 52 名に対して在籍数は 45 名となり実際に出席している人数は、多くて 39 名。それは、保護者が休みの日は家庭で児童を見てもらうのがルールであったり、高学年の兄や姉がいれば、下校時間が一緒の水曜日は留守番をするなどしてもらっているため、在籍人数の差がある。また、放課後子供教室に参加している児童もおり、青い鳥教室とは違った活動ができるため、楽しみにしている。定員もあると思うが、もっと連携していくようなシステムがあるとよい。新型コロナウイルスが落ち着いた状況の中で仕事を始める家庭が増えしており、駆け込みで児童の預かりをお願いされることがある。働く家庭にとっては力になれていると感じる。
委員	支援員と補助員の人数を見ていたら、補助員は 0 名の所が多いがこれは実情として補助員がいなくても教室運営は大丈夫なのか。
委員	校区やケースにより児童数が変わるため、児童数が少ない垂水校区などは落ち着いた状況で補助員なしで運営している。
委員	支援が必要な児童に対してのプラスの支援員がいると思うが、そのすべての支援

	<p>員を合わせても、とても足りているとは思えない。募集しても来ないのは以前も課題に挙がっていたが、予算的にはどうなっているのか。多く人数が確保できれば、配置することはできるのか。</p>
委員	<p>予算は用意していただいている。現状としては、支援員不足が続いているが、苦労している。募集をかけたり賃金についても教育委員会と協議し、上げているが、なかなか応募が来ないのが現状。その辺りは、教員や保育士等と同じ状況だと思う。1教室2名の支援員確保が難しい教室については、補助員の協力を得て運営している。</p>
委員長	<p>離職している人の理由として、例えば、賃金や働く時間の問題、人間関係などがあると思うが、どういう傾向があるか。</p>
委員	<p>賃金の問題もあるが、勤務する時間帯が難しいと考えられる。平日は14時から19時に対し、長期休業期間中は7時30分から19時までという業務時間のためダブルワークがしづらい状況であったり、基本的には仕事のしづらい時間帯である。また、人間関係やクレームに対応しきれず辞めていく場合もある。</p> <p>賃金を上げたことに関して、離職に対する歯止めにはなったのではないかと思う。しかし、こちらが思っているほどの応募は来ていないため、やはりお金だけではない。昨年度、各教室にパソコンを導入していただき、少しでも事務作業を減らせるようにしていただいている。パソコンを使える人が少ないので現状だが、仕事として少しでもやりやすくなるとよい。</p>
委員長	<p>業務のスリム化と保育の質の担保が今後の課題になる。スリム化できる業務とできない業務の中で、児童に指導する部分は削れないため、効率化に関して、どのように業務を整理するかという部分も事業団が人を集めてくるときのポイントになり、市も考えなければならない。</p> <p>続いて、放課後子供教室について議論を始める。前後して、青い鳥教室の件で発言していただいても構わない。</p>
委員	<p>子供教室に関しては、各地域で自由なスタイルで実施できる面もあるため、様々な工夫をしながら人材確保にも努めているのがコーディネーター連絡会でも見受けられた。ただ、多くの児童を受け入れられる教室と人数制限された中で教室運営をしているところで、青い鳥教室のすべての児童を対象とするといったところでその目的にかなりかけ離れていると日々感じる。各小学校区に一つは子供教室があると</p>

	<p>いう目標を市も目指しているのは、進めていただきたい。また、学生ボランティアさんは、現場としてもとても助かっている。なかなか単体で募集しても集まらないのが現状だが、社協やマルタスと連携しながら人材を行政が主体的に募集してくださると助かる。現在、大学生が2年ほど関わってくれているが、学生自身もどんどん成長しており、子ども達も年の近い大人の人と交流することで喜んでくれている。青い鳥教室に大学生のボランティアに来てもらうことは難しいのか。</p>
事務局	<p>青い鳥教室についてはボランティアではなく、アルバイトという形で夏休み学生に入っていただいている。</p>
委員長	<p>マルタスでも紹介をしているのか。</p>
事務局	<p>青い鳥教室も放課後子供教室も直接マルタスにお願いしたことはないが、チラシなどを見て案内してくれているかもしれない。</p>
委員	<p>基本は、ボランティア登録後に子供教室に参加してもらっているが、突然来られると、どういった人材なのか分からぬ部分もあるので心配もあった。</p>
委員長	<p>アルバイトや支援員、ボランティアもだが部局によってそれぞれ窓口が別にあるため、思いが強い人材でないとそこまでたどり着くのが難しい。今後、子どもに関わるような活動をしたい人がサイトや窓口に訪れたとき、全ての情報がひとつにまとめられていると分かりやすい。学生や社会人の方が見やすくなると考える。</p>
委員	<p>今年度より中学生ボランティアに子供教室に参加してもらっている。6月に地域学校協働本部で中学校にお願いし、実現した。小学生のうちは、地域との関わりが多くあるが、中学生になった途端関わりが減る。中学生にも活躍できる居場所を作れないかということで始めた。中学生は、小学生の児童に寄り添い、準備や片付けも手伝ってくれ、普段の学校生活では感じられない充実感を得られていると思う。</p> <p>今年度活動している中で、気にかける必要がある児童がこれまでより増えていると感じる。小学校や青い鳥教室での児童の状況を共有できる形があればよい。</p>
委員長	<p>問題点として、家庭状況や子ども自身の育ちの問題、学校での成長度合いが絡んでくるが、現場的にはどう感じるか。</p>
委員	<p>コロナ禍も関係していたと思う。</p>
委員	<p>現実、子供教室では児童一人一人をスタッフがそこまで見ることは難しい。基本的に親子参加にしているため、子どもたち以外から情報が耳に入ってくることも</p>

	<p>あるが、そこまで深く立ち入って対応するのは難しい。また、先ほどの議論の中で保護者にもう少し呼びかけを行い、準スタッフのような要員になってもらえるといと気づかされた。中学生ボランティアについては、数年前に校長先生に相談したが、頓挫してしまったため、参考にさせていただきたい。</p>
委員	<p>地域活動をしている私たちにとっては、保護者の方にも地域活動の楽しさを知つていただく機会になると思うので参考にしたい。</p>
委員長	<p>将来の担い手ということで考えると、小学生から中学生になり今度は支える側になる意識をもつための活躍できる居場所を提供することで、子供教室は可能性を秘めた場所だと思う。それには中学校の先生にも連携について分かってもらう必要がある。勉強や部活動が苦手な子どもでも地域のボランティアであれば、得意な子どもがいる可能性があるため、その居場所を私たち大人が地域差のある中で、どうやって提供するかを考えなければならない。他に何か意見はあるか。</p>
委員	<p>地域全体の活動をする以上、子ども達だけに限った活動は全体的に見ると一部になるが、方向性としては通年で子どもとの関わりを持てるような体制にしたいと思う。</p> <p>また、防災関係で避難所の開設等の際、お年寄りが多い関係でうまくいかないこともありますため、中学生と一緒に取り組もうとしている。子ども達のために何か行う際、遊んだりすることに重きを置きがちになるが、役に立つということを体験してもらうことも大事だと考えている。現在、核家族が増えている中で、お年寄りの考え方を知つてもらうため、敬老会では、子ども達と触れ合う機会を設けることとしている。</p>
委員長	<p>小学校の立場で放課後支援の連携にあたって意見はあるか。</p>
委員	<p>青い鳥教室の運営に関しては、日頃よりお世話になっており、感謝申し上げる。子供教室については、中学生でもボランティアの分野であれば、楽しみにしている生徒もいるので、校区の横の連携をお願いしたい。前任校の多度津ではすべての学校で連携が行われていたため、ニーズに応えられていたと思う。子どもたちは、家庭や学校の中で我慢している中で、外での活動を楽しみにしている声を聞くため、今後もご協力をお願いしたい。</p>
委員	<p>東中学校にボランティア募集をしたため、他の校区の生徒にも活動に参加いただ</p>

	いている。
委員	コミュニティセンターの前に田んぼがあり、コスモス畑を作ろうと飯山の高校生と大学生も呼んで種植えを行っている。そこに中学生も参加してもらえばよいと思った。
委員長	地域性があると思うので、その地域ごとに活躍できる場所があるとよい。
委員	先程の気にかける必要がある児童について、小学校と情報の連携はしていないが、子ども自身の特性を見て、スタッフ同士で話し合う機会は常に持っている。
委員	例えば、マイナス面もそうだがプラスの面について小学校に伝えることで、学校での先生の関わりや対応も違ってくるのではないかと考える。
委員	先生方は忙しいので学校側が受け入れてくれるかどうかの体制が難しいのではないか。
教育長	学校現場でいた立場からするとそういう情報は非常にありがたい。気がかりなところについても情報共有できる関係は、本来そうあるべきだと思うし、目指していくとよい。中学生に関しても、なかなか日の当たる機会が少ない生徒でも一人一人いいところがあり、地域の方々がこれだけ子ども達のことを考えていることを校長先生方にも伝えたいと思った。  また、中学校の部活動地域移行が話題になっていると思うが、綾歌中学校の吹奏楽部が地域の方に指揮者をお願いして、コンクールに出場している姿を見て、これから地域の繋がりの可能性を感じた。将来的に子ども達が次の担い手となり育っていくことを嬉しく思う。
委員長	地域が縮小していくことは自治体にとって一番の課題になる。部活動もそうだが、いかにして持続させていくかについては今までどおりのやり方では難しい。地域の埋もれている人材が出てきやすいような環境を行政がつくっていくことが必要になる。連携の必要性をこの会議の中では共有できるが、不特定多数の人に重要性を知ってもらうためには、取組内容や成果を恒常的に言い続けなければ、広がらない。
委員	コミュニティセンターへの掲示や広報誌にやったことを発信しており、これまで協力的ではなかった方も参加してくれるようになった。
委員長	大学生ボランティアについては、どうなったか。
事務局	次年度、高校生ボランティア又は大学生ボランティア募集をどうするかについて

	は、テスト教室含め、検討中の段階である。
委員長	今の議論の中では、中学生ボランティアについても出ているため、前向きに検討していただければと思う。
委員	子供教室について、利用の対象者については、中学生も可能なのか。
事務局	基本、募集などは小学生児童になるが親子参加も可能のため、兄や姉の参加等により中学生が参加すること自体は問題ない。
	本日の委員会を終了したい。お疲れ様でした。
	—閉会 午前 11 時 30 分—